戦前日本の住宅作品における鋼管椅子と居室との機能及び色彩の関係

The Relationship of Tubelar Steel Chairs and Rooms in Japanese Pre-War Houses through Functions and Colors

安田研究室 20M50230 小林 由佳 (KOBAYASHI,Yuka)

1. 序　戦前日本では生活の近代化が進み、椅子座式の生活や暖房機器、衛生陶器など合理的な生活を実現するための多くの新しい要素が住宅に取り入れられた。1930 年代には ﾊﾞｳﾊｳｽ等が日本の建築家に影響を与え、国際様式の建築や乾式工法が広まると同時に、それらの住宅で用いられた鋼管製の椅子 (以下、鋼管椅子) も注目を集めた。当時の建築専門誌には鋼管椅子を用いた居室の写真が掲載され、鋼管椅子は近代的な生活や住空間の形成と密接な関わりがあると考えられるが、これまでに深く検討されてこなかった。本研究では、戦前の鋼管椅子が用いられた独立住宅作品を対象に、鋼管椅子の形状や用いられた室の傾向を分析し、居室の内装と鋼管椅子の仕上と色彩を検討することで、鋼管椅子と居室との関係を明らかにすることを目的とする。

2. 戦前の独立住宅作品における鋼管椅子の特徴　戦前の建築専門誌[1] に掲載された独立住宅作品のうち、写真中に鋼管椅子が確認できたものを抽出したところ 75 件が該当し、そのほとんどが 1930 年代に発表されたものであった (表1)。

まず事例内で用いられる座家具の種類を整理すると、置き家具と造作家具に大別でき、置き家具は鋼管椅子、木製椅子、ｿﾌｧが、造作家具はﾍﾞﾝﾁがみられた (図 1)。全事例のうち、木製椅子やｿﾌｧと鋼管椅子を合わせて用いた事例は 56 件であり、そのうち鋼管椅子を 1 室のみで用いたのは 21 件、2 室で用いたのは 15 件であった (表 1)。一方、鋼管椅子のみが確認できたのは 19 件であった。

次に事例中に用いられた鋼管椅子について、背もたれと肘置きの有無による形状[2]、張地の種類[3]、また脚の形状で分類しそれらの事例数と脚数を示した (図 2,3)。布張と籐張ではﾊﾞｳﾊｳｽで製作された鋼管椅子の初期案[4] と同じｻｲﾄﾞﾁｪｱが、ｸｯｼｮﾝ張ではｱｰﾑﾁｪｱが多く用いられた。脚の形状は片持ちのものが総数の 9 割以上を占め (381/402 脚)、当時用いられた鋼管椅子の主流であったことがわかる。

3. 鋼管椅子と用いられた室の機能の関係　内観写真に座家具が確認できた居室において、座家具の種類と組合せ及び形状を室ごとに検討する。

3-1. 室ごとの座家具の種類と形状　まず、主要な室における座家具の種類と組合せを整理した (図 4)。内観写真で座家具が確認できた事例〈座家具あり〉は鋼管椅子を用いた〈鋼管あり〉と用いない〈鋼管なし〉に大別でき、居間、食堂、書斎、寝室、ｻﾝﾙｰﾑでは〈鋼管あり〉が多く、玄関や階段室とﾎｰﾙ、ﾃﾗｽ、応接室では〈鋼管なし〉が多い。各室の特徴を見ると、居間は木製椅子など他の座家具を鋼管椅子と組合せ、その他の室では用いる座家具の種類を揃える傾向がある。また玄関やﾃﾗｽは〈座家具あり〉が〈写真あり〉の半数以下であるが、鋼管椅子の使用も確認できた。玄関は造作ﾍﾞﾝﾁのみを用いる事例 (9/19 件) と鋼管椅子のみを用いる　事例 (5/19 件) が多く、木製椅子の使用は少ない。ﾃﾗｽは〈座家具あり〉のうち〈鋼管あり〉が半数程度である。また応接室は〈鋼管あり〉が少なく、他の室に比べｿﾌｧの使用が多いことから (7/14 件)、応接室のような接客用の室よりも、居間など日常的な生活の場面で鋼管椅子が多く用いられていたことがわかる。

次に、座家具の形状ごとに個数とその割合を示した (図5)。鋼管製・木製に関わらず、居間、ｻﾝﾙｰﾑ、応接室でｱｰﾑﾁｪｱが、食堂、書斎、玄関でｻｲﾄﾞﾁｪｱが多く用いられる傾向がある。またｻｲﾄﾞﾁｪｱに関して、居間における内訳を見ると、鋼管椅子のうち約 4 割であるが (49/123 脚)、木製椅子では約 1 割に留まる (5/44 脚)。このように鋼管製のｻｲﾄﾞﾁｪｱが木製のｻｲﾄﾞﾁｪｱより多く用いられる傾向は食堂と書斎を除く全ての室で見られ、特に居間やﾃﾗｽ、ｻﾝﾙｰﾑ、応接室など作業よりも寛ぎや休息の役割を担う室でその傾向は顕著である。

3-2. 建築家ごとの特徴　対象事例 75 件のうち 4 件以上の住宅を設計した土浦亀城、山脇巌、蔵田周忠、谷口吉郎について、建築家ごとに座家具の種類と組合せの傾向を検討する (図 6)。土浦は居間 (17/19 件)、食堂 (13/15 件)、書斎 (5/5 件) で鋼管椅子を多く用い、その張地は多くがｸｯｼｮﾝ張である (15/19 件)。山脇は鋼管椅子を特定の室で多く用いることはなく、住宅ごとに使う室は様々である。また造作ﾍﾞﾝﾁを居間や食堂などに用いる一方、ｿﾌｧはどの事例にも用いていない。蔵田は、他の建築家に比べ居間で鋼管椅子を用いることは少なく (1/6 件)、玄関で多く用いる傾向があり (4/6 件)、また張地は布張を多く採用している。谷口は、居間と食堂の他にﾃﾗｽにも鋼管椅子を多く用いている (3/4 件)。

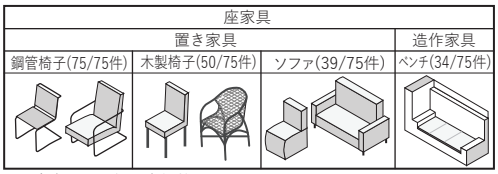


図1 座家具の分類と事例数

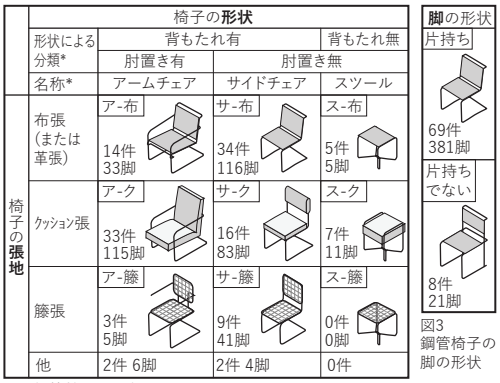


図2 鋼管椅子の形状と張地　*分類とその名称については本文注2を参照

図3 鋼管椅子の脚の形状

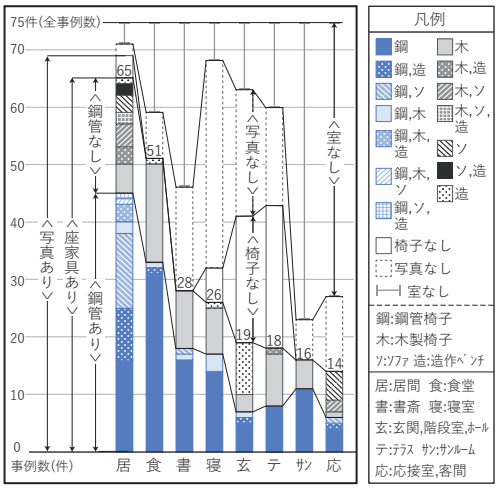
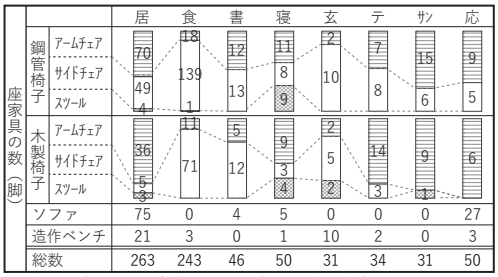


図4 主要な室における座家具の種類と組合せ



	居	食	書	寝	玄	テ	ｻﾝ	応
鋼管椅子 アームチェア	70	18	12	11	2	7	15	9
鋼管椅子 サイドチェア	49	139	13	8	10	8	6	5
鋼管椅子 スツール	4	1		9				
木製椅子 アームチェア	36	11	5	9	2	14	9	6
木製椅子 サイドチェア	71		12	3	5			
木製椅子 スツール	5			4	2	3	1	
ソファ	75	0	4	5	0	0	0	27
造作ベンチ	21	3	0	1	10	2	0	3
総数	263	243	46	50	31	34	31	50

図5 主要な室における座家具の形状ごとの個数と割合　*凡例は図4を参照

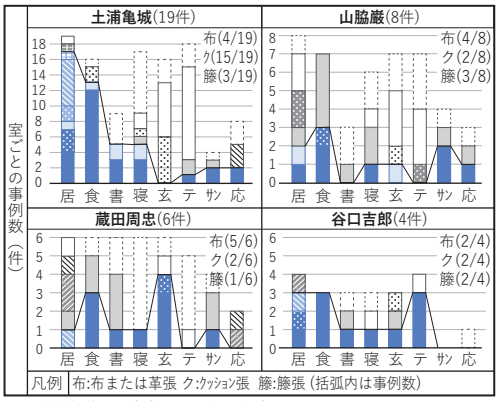


図6 建築家ごとの座家具の種類と組合せ　*凡例は図4を参照

表1 鋼管椅子を用いた戦前日本の住宅作品一覧

No.	年*1	住宅名	設計	鋼管椅子が用いられた室・鋼管椅子の種類と脚数	室の数*2	掲載誌*3
1	1931	安井邸	安井武雄	[居]サ-ク(2) [食]サ-ク(6) [寝]サ-ク(1)	3	新 1931.8
2		市浦邸	市浦健	[居]ア-布(2),サ-布(1)	鋼のみ	新 1931.12
3	1932	平林邸	土浦亀城	[居]ア-ク(1),サ-ク(1) [食] サ-ク(6) [書]ア-ク(2),ソ(1)	3	新 1932.1
4		土浦邸(第一)	土浦亀城	[居]ア-布(3),サ-布(1),ス-布(1) [食]サ-布(4) ●- - -	鋼のみ	新 1932.2
5		一戸邸	一戸二郎	[応]サ-布(4)	1	新 1932.3
6		俵邸	土浦亀城	[居]ア-ク(1) [食]サ-ク(4) [応]ア-ク(4)	3	国 1932.3
7		鶴見邸	山田守	[ｻﾝ]ア-布(2) [テ]サ-布(1)	2	新 1932.4
8		西野邸	石本喜久治	[居]ア-ク(4)	1	新 1932.6
9		某氏邸	安井武雄	[食]サ-ク(6) [書]ア-ク(4)	2	新 1932.8
10		漆間邸洋室	山越邦彦	[居]ア-布(2),サ-布(2),ス-布(1)	鋼のみ	新 1932.8
11	1933	吉野邸	土浦亀城	[居]ア-ク(3) [食]ア(5)-ク [書]ア-ク(1)	3	新 1933.3
12		加地邸	遠藤新	[書]ア-布(1) [ｻﾝ]サ-ク(1)	2	国 1933.5
13		植村邸	土浦亀城	[居]ア-籐(1) [食]サ-籐(6)	鋼のみ	新 1933.8
14		鳩山邸(A邸)	A・ﾚｰﾓﾝﾄﾞ	[居]ア-ク(1) [食]サ-布(4) [寝]ア-ク(1),ス-ク(1)	3	国 1933.7
15		鳩山邸(B邸)	A・ﾚｰﾓﾝﾄﾞ	[食]サ-布(10)	2	国 1933.7
16		DOMO DINAMIKA	山越邦彦	[居]サ-布(3) [食]サ-布(2) [書]サ-布(2)●- - -	鋼のみ	国 1933.5
17		鴎南荘	佐藤武夫	[居]ア-ク(2)	鋼のみ	新 1933.10
18		佐々木邸	谷口吉郎	[居]サ-ク(3) [食]サ-ク(4) [テ]サ-他(2) [玄]サ-ク(2) [寝]サ-ク(2)	鋼のみ	新 1933.11
19	1934	山本邸	土浦亀城	[居]ア-布(4) [食]サ-籐(7) [テ]ア-布(1) [寝]ア-ク(1),サ-布(1)	4	新 1934.1
20		M邸家族室	谷口吉郎	[居]ア-ク(3),サ-布(1) [テ]サ-布(1)	鋼のみ	新 1934.4
21		吉本邸	鴻坂光夫	[居]サ-ク(2) [食]サ-ク(4)	2	新 1934.5
22		島田邸	斎藤寅郎	[居]サ-籐(3) [書]サ-籐(1)	鋼のみ	新 1934.5
23		富永邸	土浦亀城	[居]サ-布(2) [食]サ-布(3),ス-布(1) [書]サ-布(1)	3	国 1934.6
24		神坂邸	神坂三郎	[書]サ-布(1)	鋼のみ	新 1934.7
25		竹内邸	土浦亀城	[居]ア-布(3) [食]サ-籐(6)	鋼のみ	新 1934.7
26		診療所と住宅	山脇巌	[食]サ-布(7)	1	新 1934.8
27		村田邸	村田政眞	[居]ア-ク(2) [食]サ-布(4) [書]サ-布(1) [寝]ス-布(1)	鋼のみ	新 1934.9
28		W邸	島藤設計部	[応]サ-ク(1)	1	国 1934.9
29		内田邸	蔵田周忠	[食]サ-ク(6) [玄]サ-ク(2)	2	新 1934.10
30		鶴見邸	秀島乾	[居]サ-布(1) [ｱﾄ]ア-布(2) [テ]サ-布(2)	鋼のみ	新 1934.12
31	1935	M氏の書室	山脇巌	[ｱﾄ]ア-ク(2),サ-布(1)	1	国 1935.1
32		高橋邸	土浦亀城	[ｻﾝ]ア-ク(2)	1	国 1935.2
33		土浦邸(第二)	土浦亀城	[居]ア-ク(3) [食]ア-ク(3) [寝]ス-ク(2) ●-	鋼のみ	新 1935.3
34		某氏の住宅	石本喜久治	[寝]ア-ク(1),ス-ク(1)	1	新 1935.5
35		第二の小住宅	市浦健	[居]ア-布(1),サ-布(1) [書]ア-布(1)	2	新 1935.6
36		福澤邸	蔵田周忠	[玄]サ-布(2) ●- -	1	新 1935.6
37		今村邸	土浦亀城	[居]ア-ク(3) [食]サ-ク(4) [書]ア-ク(1)	3	新 1935.6
38		三島邸	土浦亀城	[居]ア-ク(1),サ-布(2),ソ(1) [書]ア-ク(1)	2	国 1935.6
39		安田邸	安田清	[居]サ-布(1) [食]サ-布(3) [書]サ-布(1)	3	新 1935.7
40		高島邸	土浦亀城	[居]ア-ク(3) [食]ア-ク(4)	鋼のみ	国 1935.7
41		山脇邸	山脇巌	[居]ア-布(3),サ-布(2),ス-布(1)	1	新 1935.8
42		中村歯科医院	安田清	[居]ア-ク(1),サ-ク(1) [食]サ-ク(4) [書]サ-ク(1)	3	新 1935.10
43		菊名邸	山口ﾀﾞｼ	[居]サ-布(2)	鋼のみ	住 1935.10
44		渡邊邸	吉川清作	[居]サ-布(3)	鋼のみ	住 1935.10
45	1936	鍵富邸	村田政眞	[ｻﾝ]ア-ク(2) [寝]ア-ク(2), サ-布(1),ス-ク(1)	鋼のみ	新 1936.2
46		Y邸	山口蚊象	[居]ア-ク(2), サ-ク(1)	1	新 1936.3
47		N氏のｱﾄﾘｴ	吉原慎一郎	[食]サ-ク(4) [書]サ-ク(2) [ｱﾄ]ア-ク(1)サ-ク(1)	3	新 1936.4
48		酒見恒氏ｱﾄﾘｴ	安田清	[居]ア-ク(2),サ-布(2) [ｱﾄ]サ-布(2) [ｻﾝ]サ-布(1) [寝]サ-布(1)	鋼のみ	新 1936.4
49		令息の家	本野精吾	[居]サ-布(3)	1	住 1936.5
50		金子邸	蔵田周忠	[玄]サ-布(2)	1	国 1936.6
51		谷口邸	谷口吉郎	[食]サ-籐(4) [書]サ-布(1) [テ]サ-他(2)●- -	3	新 1936.6
52		齋藤邸	蔵田周忠	[書]サ-布(2)	1	国 1936.7
53		渡邊邸	村田政眞	[寝]ア-ク(1) [子]ア-布(2)	2	新 1936.8
54		安川邸	蔵田周忠	[居]ア-ク(2),ス-ク(1) [食]サ-布(6) [ｻﾝ][子][玄]ア-ク(2) [寝]ス-ク(2)	6	国 1936.11
55	1937	H邸	山脇巌	[ｻﾝ]サ-籐(4) [子]サ-籐(2)	2	国 1937.2
56		村田邸	堀山喜久夫	[居]ア-ク(2) [応]ア-ク(2)	2	国 1937.2
57		田宮邸	土浦亀城	[居]ア-ク(2) [ｻﾝ]ア-ク(2)	2	新 1937.2
58		K氏邸	谷口吉郎	[居]サ-籐(1) [食]サ-籐(2)	2	新 1937.4
59		角谷邸	土浦亀城	[居]ア-ク(2)	1	国 1937.5
60		S邸(渋谷)	山脇巌	[食]サ-籐(4) [寝]ア-籐(1),ス-ク(1) ●- - - - - - -	2	新 1937.6
61		前田邸	池田總一郎	[食]ア-ク(6) [書]ア-ク(1)	2	住 1937.9
62		岩出邸	土浦亀城	[居]ア-ク(2)	1	新 1937.11
63		S邸(中野)	山脇巌	[居]ア-籐(2) [玄]サ-籐(1)	2	新 1937.12
64		B氏の住宅	芳田哲郎	[テ]ア-他(3)	1	新 1937.12
65		濱田邸	福中駒吉	[居]サ-布(2) [寝]サ-布(1)	2	住 1937.12
66	1938	O氏邸	山脇巌	[食]サ-布(4)	1	国 1938.1
67		貝島邸	蔵田周忠	[食]サ-布(6)	1	国 1938.1
68		竹原邸	土浦亀城	[居]サ-ク(2) [食]サ-ク(3)	2	国 1938.1
69		平岡邸	三浦元秀	[居]ア-ク(2),サ-布(4)	1	住 1938.2
70		池尾邸	土浦亀城	[居]ア-ク(2) [寝]ア-ク(1)	2	国 1938.3
71		某氏邸	与志田徹郎	[ｻﾝ]ア-ク(1) [テ]ア-他(3) [玄]サ-ク(1)	3	新 1938.7
72		遠藤邸	土浦亀城	[食]サ-ク(6) [応]ア-ク(3) [寝]ア-ク(1) [子]ア-ク(1)	4	国 1938.7
73	1939	N邸	山脇巌	[ｻﾝ]ア-布(2)	1	新 1939.5
74		石本邸	石本喜久治	[ｻﾝ]ア-布(2) ●- -	1	新 1939.5
75	1941	M氏邸	A・ﾍﾞﾂｵﾙﾄﾞ	[寝]ア-布(2),サ-布(1)	1	新 1941.6

凡例: [居]ア-布(1) — 数(脚) / 椅子の張地 / 椅子の形状 / 室(図4凡例を参照)

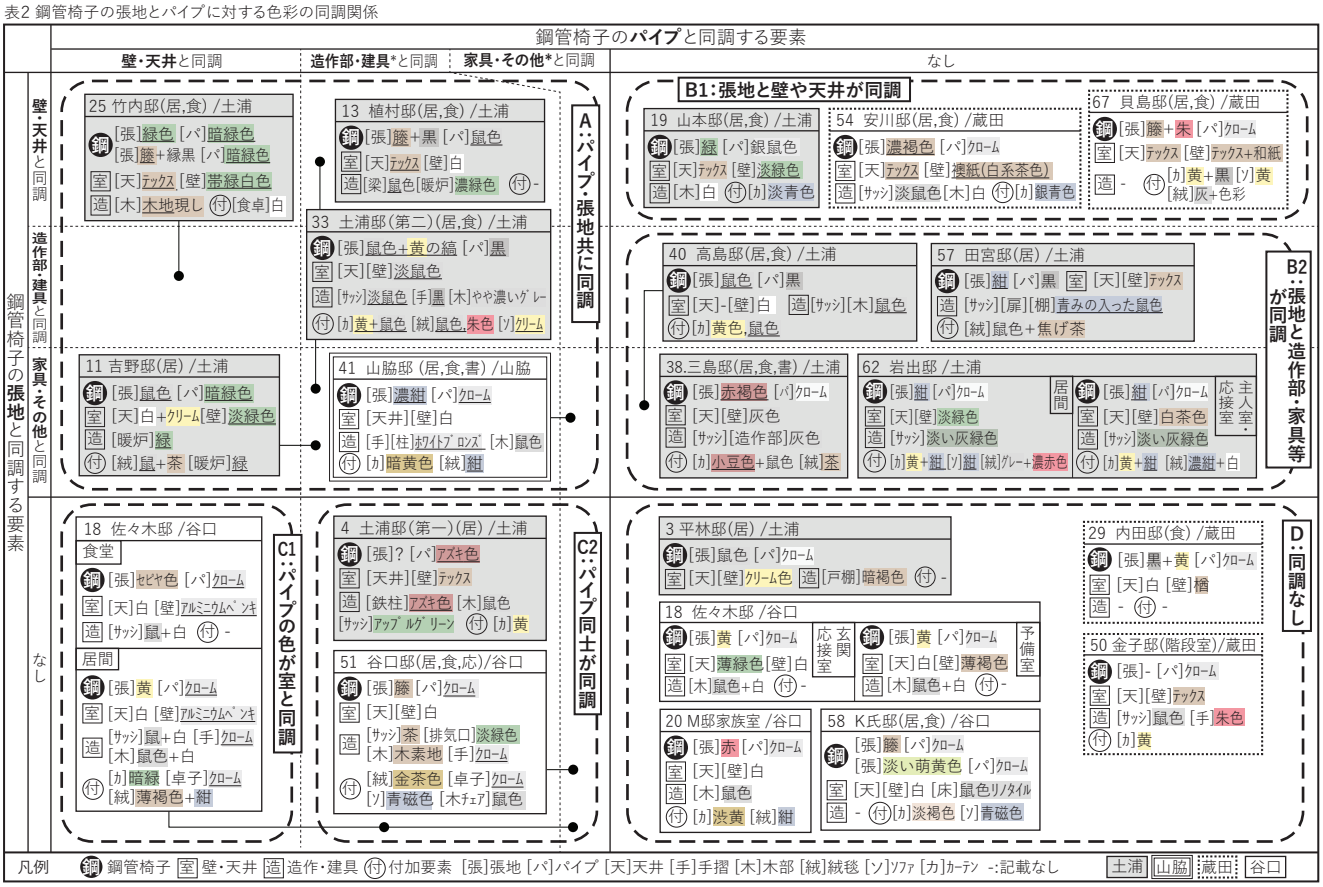
*1 建築専門誌で最初に発表された年　*2 鋼管椅子が確認できた室, 鋼のみ:置き家具に鋼管椅子のみを用いた住宅
*3 1945年までの主な掲載誌 新:新建築 国:国際建築 住:住宅

4. 内装と鋼管椅子の色彩の関係　内装と鋼管椅子の両方について仕上や色の情報を得られた事例のうち、土浦（11 件）、蔵田（4 件）、谷口（4 件）、山脇（1 件）の住宅作品（計 20 件）を分析対象とする。鋼管椅子の張地・ﾊﾟｲﾌﾟと内装仕上の各要素について色の同調関係の有無で整理すると、事例は **A** ～ **D** の 4 つに、更に **B**,**C** はその中で各 2 つに分けられ、計 6 つのﾊﾟﾀﾝに分類できた（表 2）。

4-1. 内装と鋼管椅子の色の同調関係　**A** は張地・ﾊﾟｲﾌﾟ共に室の要素と同調している。竹内邸のように鋼管椅子を含め室全体を同系統の色でまとめたもの、山脇邸のように張地とﾊﾟｲﾌﾟそれぞれが違う要素と同調するものが見られた。また土浦邸（第二）は布地の鼠色だけでなく模様の黄色も同調し、特に同調関係が多い。いずれも鋼管椅子は空間の中で目立たず、室全体の色彩に調和する。**B** は張地と他の要素が同調するもので、**B1** は壁や天井が張地の色と同調している。安川邸では張地と壁に緑系の色を用い、山本邸では天井や壁のﾃｸｽと同調する色や素材を張地に用いるなど、面同士での同調が見られる。**B2** は張地と造作部や家具の色が同調している。ｶｰﾃﾝや絨毯と張地などの布地同士での同調が多く、それらが壁や天井の色と対比している。**C** はﾊﾟｲﾌﾟと他の要素が同調し、**C1** はﾊﾟｲﾌﾟと壁や天井の色が、**C2** は手摺などのﾊﾟｲﾌﾟ同士が同調している。土浦邸（第一）ではﾊﾟｲﾌﾟのｱｽﾞｷ色が、谷口邸ではｸﾛｰﾑﾒｯｷがそれぞれ同調しており、同質素材の色が統一されることで、細い線材が壁や天井と対比している。**D** は鋼管椅子の張地・ﾊﾟｲﾌﾟ共に他の要素と同調しない。該当事例ではいずれも鋼管椅子のﾊﾟｲﾌﾟは着色塗装ではなくｸﾛｰﾑﾒｯｷで仕上げられ、室にある各要素の色が独立する中で、特に鋼管椅子の金属の素材が際立っている。

4-2. 建築家ごとの特徴　土浦は **A**,**B1**,**B2** に多く該当し（9/11 件）、また **A** の多くが土浦の作品である。唯一鋼管椅子のﾊﾟｲﾌﾟに着色塗装をしており（7/11 件）、張地・ﾊﾟｲﾌﾟ共に色の同調を多く用いて室の色彩を一体的に仕上げる傾向がある。蔵田は 2 件が **D** で同調はみられず、また 4 件全てで壁や天井にﾃｸｽや和紙等を素地で用いており、鋼管椅子にもｸﾛｰﾑﾒｯｷを用いて金属の素材感を生かしつつ、その張地の色が室の仕上と対比する傾向にある。谷口は **C1**,**C2** の 2 件で鋼管製のﾃｰﾌﾞﾙにもｸﾛｰﾑﾒｯｷを用い、他 2 件は **D** であり鋼管椅子と他の要素との色の同調は蔵田と同様に少ない。また壁や天井を白い仕上とし、白い面の空間に様々な色を用いる傾向があるといえる。山脇は色の記載が確認できた山脇邸は **A** に該当し、鋼管椅子の張地は絨毯と、ﾊﾟｲﾌﾟは手摺や柱などいずれも付加的な要素と同調している。

表2 鋼管椅子の張地とパイプに対する色彩の同調関係



*「造作部・建具」は建築の一部、「家具・その他」は置き家具やｶｰﾃﾝなど付加的で動かせる要素を指す。** 図の色は分析において同調関係の視認性のために筆者が着色したもので、実際の色とは異なる。

5. 建築家の鋼管椅子に関する思想　土浦、山脇、蔵田、谷口を対象に、家具や室内空間に関する言説を抽出して整理した（表3）。これらの言説と前章までの事例分析を踏まえ、各建築家の鋼管椅子に関する思想を検討する。

土浦は、弾性による座り心地、清潔さ、移動性、形状の新しさや合理性など鋼管家具の長所を多く指摘し（a~e）、また軽量な鋼管椅子がもつ移動性を活かした過ごし方の例を挙げている（f）。また椅子式の住宅には新しい合理的な様式を採用すべきと述べており（h）、その思想に鋼管椅子の意匠や理念が合致したと考えられる。実際の設計においても、多くの事例や室で鋼管椅子を用いるなど導入に積極的な姿勢が見られ、また室や造作家具等と一体で色彩を計画する傾向にあった。**山脇**は鋼管椅子の形状の多様化・複雑化を批判して合理的な形の標準型に立ち返るべきと主張し（i）、実際に布張や籐張のｼﾝﾌﾟﾙな鋼管椅子を多く用いていた。また室内空間について、材料を活かすことと装飾の排除（j）、和洋の形式からの解放（k）を主張しており、鋼管椅子も同じ点で評価していると考えられる。さらに融通性という言葉で室や家具の可変性を表現し（l）、場面に応じた室の使い方を重視しており、自邸の居間のような融通性のある空間で、軽量な鋼管椅子が活かされていた可能性がある。**蔵田**は日本の家具・工芸品の純朴さや用材の美しさを評価し、鋼管椅子の軽やかさもその共通点として評価している（m）。また室内の色彩については、家具の色や素材をｱｸｾﾝﾄとして用いるよう述べている（n）。実際の設計でも、壁や天井にﾃｯｸｽ等を素地で用い、淡い色彩の室の中で鋼管椅子のｸﾛｰﾑの質感が際立っていた。**谷口**は鋼管椅子における装飾の排除と材料そのものの美しさを活かした部分に日本らしさを見出しており（s）、またそこに現代建築の合理性があるとしている（t）。これらの谷口の考えは蔵田の言説の多くと共通し、室の色彩計画においても、鋼管椅子を際立たせる点で類似する。

6. 結　戦前日本の住宅作品における鋼管椅子の種類と用いられた室、それらの色彩の関係を分析し、更に背景となる思想を明らかにした。工業の発想から生まれた合理的な美しさを持つ鋼管椅子は、同時に日本らしさも見出されつつ取り入れられ、1930年代日本の住宅特有の近代化を特徴づけた。

注
1）1945年までに発行された『新建築』『国際建築』『住宅』の三誌を対象とした。
2）椅子の形状の分類については、参考文献(3)(4)など当時の文献で提案されたものを参照し、ｱｰﾑﾁｪｱ、ｻｲﾄﾞﾁｪｱ、ｽﾂｰﾙの名称は現代で用いられるものを採用した。
3）椅子の張地は写真から判断した。ｸｯｼｮﾝが付加されているものはｸｯｼｮﾝ張とし、布張と革張は写真からの判別が難しいため同じ分類としている。
4）最初に作られた鋼管椅子と言われるﾏﾙﾄ・ｼｭﾀﾑのS33は布張のｻｲﾄﾞﾁｪｱであり、その後に鋼管椅子を多く設計したﾏﾙｾﾙ・ﾌﾞﾛｲﾔｰのB32は籐張のｻｲﾄﾞﾁｪｱである。

参考文献
1）石村眞一：「ｶﾝﾁﾚﾊﾞｰの椅子物語 - 日本における開発と普及を中心として」（角川学芸出版 2010.3）
2）沢田知子：「ﾕｶ坐・ｲｽ坐 - 起居様式にみる日本住宅のｲﾝﾃﾘｱ史」（住まいの図書館出版局 1995.4）
3）山脇巌：「独逸における鋼管家具の傾向」国際建築 1932年3月号（美術出版社 1932.3）pp143-151
4）手塚敬三，松本政雄：「型而工房ラボルト1 パイプ家具」（国際建築協会 1932）

表3 戦前日本の建築家4人の家具や室内空間に関する言説

	土浦亀城	山脇巌	蔵田周忠	谷口吉郎
意匠について	**装飾の排除/合理性** (a)「清潔、是が**新しい装飾**の或は新しい設備の第一条件であります、(…)パイプ家具は(…)、**清潔と云ふ点**は先刻申した条件に第一に満足するであらうと思ひます。」[TK2] (b)「冷たくて、滑らかで、**恰好も感じも非常に理智的**であります、全体の感じも**軽快**であるし、(…)」[TK2] (c)「決して美しい為に作つたのではない、全く別の立場から出来て居るのでありまして、(…)**新しい美しさ**と云ふもの」[TK2]	(i)「自分は最近の独逸鋼管家具の前途を悲観して居る一人である。(…)其製作品は、簡易、軽量、堅実、衛生、安価、大量生産等根本の主張を裏切り、鋼管必然的の形態を脱し、(…)富豪の別荘を飾る工芸美術品とならざるを得ない。」[YI1] (j)「**材料のよさをそのまま味ひ**、そのものを殺して了ふ様な**無駄な装飾**を求めたくない」[YI3]	**材料を生かす** **日本建築・家具** (m)「西洋自身は今日では夙に、椅子類は特に重くないもの、寧ろ軽量のもの、清楚なものを求め、**和風家具の純朴さや用材の美しさ**を賞用している状態である。パイプ家具の如きもこの**軽量**による可能性をねらつた(…)」[KC1]	(r)「**材料学的な純粋さ**は、如何なる緻密な技巧によつて粉飾された虚飾よりも、**健やかな美しさ**を示す。」[TY2] (s)「日本趣味と云ふものの本当の精神を見出し、全然**装飾を払い除けた**このやうな清楚な感じ**そのものの美**の感じ(…)」[TY1] (t)「日本建築の美しさは、**材料と構造の率直な表現**に徹した点において、世界的誇りである。(…)現代建築の**合理性**が教へられるのである。」[TY2]
	(g)「**日本在来**のもの、(…)実によくできているが、新時代の**家具**もあれ程の低廉さと巧妙さをもつて製作してほしい。」[TK1]		(n)「室空間を淡い仕上げにしたいなら、**家具調度の色彩でｱｸｾﾝﾄを附ける**やうに考へる。(…)**日本工芸品**の逸品に時々見かける美しさを獲得することができる。」[KC1]	
	(h)「日本人にとっては、(…)椅子式となれば洋風のスタイルを持って居ないのであるから、**最も合理的なる様式**を採用すべきである。」[TK1]	**様式** (k)「これからの室内形式は、決して**和風も洋風もなく**、勿論その置かれる家具にもこの二つの区別はない筈である。」[YI3]	(o)「**様式的な考へは前にも記した如く、全くなくて**、出来るだけ忠実に技術的な基底の上に、自然な、必然な結合を心掛けることによつて、真に新らしい時代の日本的なるものに到達したい」[KC2]	
機能について	**弾力性** (d)「**弾力性を興へてｺﾝﾌｫｰﾀﾌﾞﾙにする**という云ふ目的の為には十分に叶つていう恰好」[TK2] (e)「床との間の摩擦がなく、テーブル、椅子などを**動かす**のに、非常に**軽くて便利**であります、…」[TK2] (f)「庭に出るテレスの上に椅子を並べて話をしたりすると云うような**自由な形を取ることができる**」[TK2]	(l)「**室内の融通性**が椅子式の室にも此頃は重く考へられて、(…)家具にもその特性が多く見られてきました。」[YI2] **居場所の選択性**	**融通性** (p)「最小の一室住居では、畳敷の室の方が**融通性**が多いので、どうも椅子を持ち込んでは狭苦しくなりがちです。」[KC3] (q)「縁側があると、(…)冬は籐椅子などをおいて日向ぼつこをするにもよろしい。」[KC3]	凡例 ■：鋼管椅子について直接の言及 無色：家具や室内空間全般への言及

文献　[TY1]1931.3 国際建築「新住宅建築の問題」　[TY2]1933.4 建築雑誌「家具と部屋の装飾」
[YI1]1932.3 国際建築「独逸における鋼製家具の傾向」　[YI2]1934.9 婦人之友「居間と家具」[YI3]1936.5 住宅「居間に於ける最近の傾向」
[KC1]1935「今日の住宅：その健康性と能率化への写真と解説『実際問題の設計』」　[KC2]1936.11 国際建築「北九州の一住宅 安川邸」　[KC3] 1948「小住宅の設計」
[TY1]1931.11 ﾏﾂﾀﾞ 新報「建築装飾(続)ー建築照明研究会公演ー」　[TY2]1935.6 科学画報「新しい建築美の意識」